

「ことばのカトリアル第16号」

「海洋技術コース3年生 里海環境学習～青空ラボ」

平成 29 年 12 月 7 日(木)、海洋工学科海洋技術コース 3 年生 10 名が、伊根町立伊根小学校 5・6 年生の皆さんを対象に「里海環境学習～青空ラボ」を実施しました。天橋立のアマモ場造成や養老地区沿岸のウニ駆除と活用の紹介、作業潜水の支援体験等を通して、地域の小学生と楽しく交流することができました。

坪倉 諒 (京丹後市立網野中学校出身)

今回は、潜水作業の支援についての説明と模擬体験を担当しました。青空ラボは、今年に入って複数回担当したので、全体の流れはある程度把握していました。しかし、実習船「かいよう」からのフーカー潜水は、日頃の実習でも経験がなく初の試みであり、潜水作業の遂行と小学生への説明が同時進行し、難易度が高く感じました。その中で、シナリオどおりでなくても変更や修正を加え、臨機応変に取り組むことが自分たちの実力を伸ばすことに繋がる、「真の実習」だと感じました。限られた実習の中で、最大限に自分を伸ばすことが今後の目標です。



寺川 慧 (城陽市立城陽中学校出身)

私は、養老地区沿岸でのウニ駆除や堆肥化、近隣の魚付き保安林について小学生の皆さんに説明をしました。その中で、適宜発問を交える等、小学生や引率の先生方を巻き込みながら説明を進めることができました。2年次にこのようなことができたかと問われたら、間違いなくできなかったと思います。このことから、1年間で専門の知識や技能、人に伝える力が向上したのだと実感しました。社会に出れば、その場その場で話を理解し、伝えることが求められると思います。そのためにも、残りの実習でさらに力を付けようと決意しました。



南 昴太郎 (京都市立洛北中学校出身)

今回の「青空ラボ」は、少人数ということもあり、小学生一人ひとりに丁寧に対応することができました。その中で、日頃高校で学んでいる自分たちの目線ではなく、小学生の目線で物事を考えることが大切であることに改めて気づきました。また、実習船「かいよう」からのフーカー潜水支援は私自身初めてのことであり、何が起こるかわからない可能性がありましたが、小学生を前に落ち着いて対応することができました。普段の実習と違い、自分達が学んだことを他の人に伝えることは、卒業後に社会で必要とされるコミュニケーション力であり、卒業までにはこの能力をさらに伸ばしたいと思いました。

